

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-30

## 佐貫浩教授、八幡成美教授、山田泉教授のご退職にあたって

KANAYAMA, Yoshiaki / 金山, 喜昭

---

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学キャリアデザイン学部紀要 / 法政大学キャリアデザイン学部紀要

(巻 / Volume)

14

(開始ページ / Start Page)

5

(終了ページ / End Page)

8

(発行年 / Year)

2017-03

佐貫浩教授、八幡成美教授、山田泉教授退職記念

# 佐貫浩教授、八幡成美教授、山田泉教授 のご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長 金山 喜昭

本学部では、2016年度、長年にわたり本学部の教育や研究などを支えていただいた3名の先生方が退職をすることになりました。教授会メンバーを代表して、先生方に感謝とお礼の言葉を述べさせていただきます。

## ○佐貫 浩 教授○

佐貫先生が法政大学文学部教育学科に専任講師して着任されたのは1981年、それ以来、助教授、教授として教育学科に22年間在籍され、2003年に教育学科が発展改組されて現在のキャリアデザイン学部になってから14年、合わせて36年の長きにわたり本学のためにご尽力いただきました。

その間、研究テーマは、平和教育や学力に関する研究、イギリスの教育改革、教育の公共性、ナショナリズムと教育、コミュニケーションと教育、教育の政治的中立性などのように、経年的にその研究テーマの領域を広げてこられました。

このように先生の教育学研究の特徴は、さまざまな領域のテーマに挑戦しながらも、平和、人権、民主主義といった基本的な原理、学習権、教育の自由、教師の専門性といった教育条理を軸として、ぶれない考察と分析を行ってきたことにあるように思います。

学会活動としては、日本教育法学会、日本教育政策学会、日本教師教育学会、日本教育学会、教育科学研究会などにおいて教育問題に積極的な発言をされるなど、本学を代表する教育学研究者としてご活躍されてきました。

## 6 法政大学キャリアデザイン学部紀要第14号

また、全学的には教職課程センターの中軸的な役割を担っていただきました。授業運営やカリキュラムなど教職資格の全般的な業務を長年にわたり担当していただき有難うございました。先生が教育を熱く語る授業での姿勢は、多くの学生たちに深い感銘を与えたと思います。

また、個人的なことですが、私が文学部教育学科に着任した頃、新人の私に優しく接してくれたことを昨日の事のように思い出します。また、先生による学習論は専門外の私にとってもよく理解できるもので、そのことは私がNPOの事務局長として運営している公立博物館の基本的な考え方になっています。先生には、このように多岐にわたりお世話になったことを心から感謝しております。

なお、キャリアデザイン学部教授会は、佐貫先生を名誉教授に推挙していることも申し添えておきます。

### ○八幡 成美 教授○

八幡先生は、日本労働研究機構（現・労働政策研究・研修機構）の研究者として長年勤められ、キャリアデザイン学部が設置された初年度の2003年に教授として着任されました。それ以来、教授会主任をはじめ各種委員や教育活動などにより、本学を支えてくださったことに心から感謝申し上げます。

中でも、学部設立時期の学部運営は、完成年度を迎えるまでに多くの煩雑な業務や課題がありましたが、先生は教授会主任として持ち前の事務処理能力を生かして、次々に難題をクリアしてくださいました。教育面では、今日の学部や大学院教育の職業キャリアに関する基礎づくりのために尽力していただきました。

先生のご研究分野は広義の経営学ですが、主な研究キーワードをあげてみると、人事労務管理、人材育成、職業教育訓練、中小企業、技術革新、技術移転、地域開発などのように広範囲に及んでいます。

製造業に関する工学的知識や労務管理、職業訓練などの諸分野にもとづいた調査を積み上げてこられました。国内ばかりでなく海外の製造業にもフィールドをもち、調査研究した成果を学生たちに身近な世界になるように教育していただきました。

公務でも厚生労働省や業界団体の各種委員を担うなど斯界に対する貢献も大きなものがあります。

なお、個人的には私の地元の千葉県野田市で日本キャリアデザイン学会の中間大会を開催した際に、先生はシンポジウムのコーディネータをお引き受けくださり、文化・歴史、商工業、企業、若手経営者の各パネリストの発言をまとめて、まちづくりに必要な具体的なキャリア形成について活発な討論になるように導いていただき、おかげさまでシンポジウムを成功させることができました。先生の見識の広さに敬服するとともに、柔軟に対応していただいたことに改めて感謝申し上げます。

ご退職は一つの区切りになりますが、今後とも引き続き本学部に対してご支援やご鞭撻をお願いします。

### ○山田 泉 教授○

山田先生は、本学部が開設した2003年に着任されて以来、14年、本学のためにご尽力くださり感謝申し上げます。先生は、高等学校の国語科教諭、文化庁日本語教育専門職員、昭和女子大学文学部助教授、大阪大学留学センター教授を経て本学部に着任されました。

先生のご専門は、ご経歴からも知られるように日本語教育や多文化教育です。先生のご研究は、長期間現地に滞在して観察する現場主義によるもので、多様な人たちが「ともに生きる」社会として必要なものは何かを追求するものです。グローバル社会の現代にとってきわめて重要な研究テーマだと思えます。

本学では、教授会副主任をはじめ、体験型科目主任や各種委員として学部運営を支えていただく一方、全学的にはグローバル化を目指している法政大学の日本語教育プログラムの準備や運営にご尽力をしていただきました。

先生は、いろいろな社会活動をされていますが、なかでも中国帰国者定住促進センターの教務課長として日本語プログラムを実施したことや、川崎や大阪では、日本語を第一言語としない人々に対する識字教育などを熱心に取り組みられました。

学会活動では、社団法人日本語教育学会において、日本語教育界に文化的視

点の必要性、子ども対応の必要性、言語政策などに新しい視点を提示され、研究・教育活動を実践してきたことが認められて、同会の学会賞を受賞されるなど、先生のご活動は斯界でも高く評価されています。

本学の教育面では、ゼミ活動では学生たちを海外に引率するグローバル体験や、本学部が独自に認定する地域学習支援士プログラムでは、先生のフィールドの一つである川崎市では在日コリアン集住地域にある学習施設の利用者を参与観察し、その活動にも参加することなど、座学にとどまらず現場体験を組み入れた教育を実践していただいたことに感謝申し上げます。

なお、来年度以降もゼミや地域学習支援士など、本学部の教育活動にご尽力していただくことを予定しております。ご退職は一つの区切りになりますが、どうぞ今後ともよろしく申し上げます。